



わか草

東京都立東部療育センター
院内報 第2号
東京都江東区新砂3-3-25
電話 03-5632-8070
印刷 東部療育センター
年4回 発行

運営理念のもとに前進していきたい

東部療育センター 事務長 唯木 暁



「わか草」創刊号で病棟と通所の状況が、本当に若草のように利用者の方と職員の姿がいきいきと紹介され、ほっといたしました。利用者の様々な楽しい生活の状況や、課題も多いながらもスタッフ一同が力を合わせ、前向きに懸命に取り組まれている姿に心をなやめると同時に、今後が大いに期待できると思つたからです。これもセンター職員全体が、利用者の方への思いとなつて現れた結果がこのようなかたちとなつたのではないのでしょうか。

毎週、有馬院長、冠木療育部長と院長回診の際、私も一緒に、利用者ご本人におはようと声をかけたり、名前をよんで手をとったりしますとニコッと笑みをうかべたり、なかには手をはらわられることもありませうが、また、ベットサイドの授業の真最中に行きますと、先生と生徒のやりとりのなかで、その表情は輝いてみえます。利用者の方も「この生活にしたいになれ、楽しんでいるとも感じられます。」

東部療育センターで療育にたずさわることには、毎日、命と直接向き合いながら利用者ご本人の生活を支援していく中で、お互いに人間として大きく成長できるという方もあり、私もそうだと思っております。このような思いなどやいろいろな希望を胸に、平成十七年四月から療育に携わる方々が集まって、東部療育センターの立ち上げに全員が一体となって取り組み十二月一日には一次開設、十八年四月には全面開設、そして一周年を迎えました。当初は、我々も、無我夢中に取り組んできたと思えます。いつの間にかという表現は、大変失礼かとは思いますが、それが大きな成果となつて現在の利用者の方々の成長や笑顔にもつなが

ってきていると思えます。こうして今まで培った利用者に対する療育を更に発展させていけたらと思っております。そのためには、引き続き最善の医療の提供、ご本人を主体とする療育の提供及び在宅支援を充実していくことが大切です。

当センターの運営理念は、守る会の「もつとも弱者をひとりもれなく守る」を基本原則に、「生命を脅かし機能の低下をきたす状態の克服に向けて最善を尽くします」「ご本人ひとり一人の思いにこたえるよう療育の工夫を尽くします」「提供するサービスの目的と内容を「本人やご家族と十分に話し合い理解して頂けるよう努めます」「地域との交流を通じ、障害のある人もない人もともに支えあふ地域づくりに努めます」となっております。

今後各部門一致協力して知恵を出し合い、創意工夫を行つてこの運営理念のもとに一歩一歩前進していきたいと思えます。

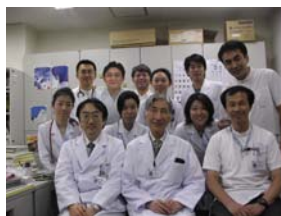


医局

現在、医科十名、歯科二名、それに外来非常勤の先生で診療を続けています。入所の方はお互いになれ、比較的落ち着いた状態になってきています。一方、外来では、発達障害のかたが多くなってきています。相談が中心の外来では、電子カルテに記録する時間が足りない状態が続いています。

この電子カルテは、昨年四月より導入されました。カルテの入力、指示だしと格闘している日々ですが、電子カルテにより一番よかったことは、指示の字が読みやすくなり（手書きの読みにくさがなくなった）、

他の医師やスタッフにも伝わりやすくなったことだと思います。ただし、キーボードに向かうことが多くなったために、いざ、手書きのときに、漢字が思い出せなくなっていることがあります。そのためか、近頃、任天堂DSがちょっとしたブームです。通勤のみならず「もつと脳をきたえる大人のDストレージ」により、脳年齢を気にする今日この頃です。



医局のスタッフです。

外来

外来の一日は、ラジオ体操とストレッチから始まります。身体の緊張をとり、スタッフ全員の呼吸を合わせる大切な時間で、外来開設当初より継続しています。

平成十七年十二月一日に外来がスタートしてから一年余が経過しました。医科外来十四診療週(医師十名)と専門外来も順次スタートして、現在では月に専門外来十科(医師十二名)になりました。診療手順や器材など分からないことだらけで各外来が始まり、電子カルテも導入され、その都度医師や関係セクションと連携を取りながら検討改善を重ねてきました。

た。患者様は超重症の方から活発な発達障害の方まで様々で、年齢層も幅広くお見えになります。日々時間に追われる外来ですが、患者様と付き添いの方皆様により安心してご利用頂きますように、スタッフ全員で外来看護サビスの充実を目指していきたくと思っています。



外来の待合室です

薬剤検査科

薬剤検査科は、薬剤室、検査室及び放射線室を含み、それぞれ三名ずつ計九名の職員で構成されています。勿論、それぞれの部署は電子カルテ対応の最新鋭機器であり、それぞれ誇れるものであります。それが説明して終わりというのも何かしっくりしません。

当センターはまだ開院して一年しか経過していませんので薬剤師として考えれば、総合病院みたいに混注、服薬指導、血中濃度解析、製剤等を実施してないので、何かすく時代が逆流したように思っつのは、私一人が感じることなのでしょう。

う。ただ、患者様のために業務をしているというところは間違いなく、この心を持っていく限り、今後の薬剤科業務の発展が期待できるかも・・・と密かに明るい希望を持っています。

もう一つ科として自慢できることは、医療ミスを隠さないことです。医療にニアミスも含めて医療過誤が生じるのが常ですが、因みに当薬剤部門だけでいうと、今年度処方箋枚数に対して0.058%（四十二月まで）と低率です。

今後とも患者様のためにと隠さないことを念頭に当センターの歴史を刻んでいきたいと考えています。

栄養科

栄養科は、一階通所の隣にあり、管理栄養士二名と十八名の調理スタッフが毎日の食事と栄養剤作りに励んでいます。

また、外来では個別で栄養相談を、入所・通所の皆様を対象には栄養士が毎日の病棟訪問で皆様に声をかけ、摂食機能・身体状況を把握しながら、生活・活動を支える身体を維持するオーダーメイドの栄養管理を行っています。食事は、メッセージカードを添えた季節の行事食や、誕生日会・クリスマス会等のケーキ提供などで「楽しく、美味しい食事」作りを心掛けています。

二〇〇六年度は病棟ごとに「デザートバイキング」を行いました。テーブルクロスの上で少し気取ってコーヒーを飲んで・・・皆様に五種類のケーキとゼリーを楽しんで頂きました。さて今年も・・・衛生面も配慮して、只今計画中です。これからも、安全で有益かつ嬉しい食事を提供するよう努力して参ります。

一階廊下の小窓から栄養科厨房をのぞいてみて下さい・・・湯気の向こうに美味しい物が見えるかもしれません。



バイキングをご用意したケーキです。

行事特集

昨年十月から今年一月末までに東部療育センター内で行われた行事を紹介いたします。

オータムフェスティバル

平成十八年十月六日に全面開設してからの初めての大行事が開催されました。外はあいにくの雨でしたが、センターの中は熱気に包まれ、ボランティアさんによるアトラクション、職員有志の演奏、喫茶コーナー、ゲームコーナーと入所者、利用者の方々をはじめ、家族の皆様にも大変喜ばれ、大盛況でした。

ボランティアによるアトラクションは、江東区と墨田区のボランティアセンターからの紹介で、一つの団体の方たちによる「南京玉すだれ」、もう一つはハモニカの演奏をしてご協力いただきました。利用者様・ご家族の皆様にとってはたいへん懐かしいものだったようです。



オータムフェスティバル
南京玉すだれ

開設1周年記念行事

平成十八年十二月一日に開設1周年記念会を開催しました。来賓として、東京都、墨東養護学校、都立東大和療育センター、よつぎ療育園、全国重症心身障害児(者)を守る会からそれぞれご祝辞を頂きました。その後、職員も代表して各部門から都庁での準備室の時の思い出や各部門毎の様子を皆で語り合いました。一周年記念誌を発行し、現在までの状況を報告いたしました。



金魚すくいとれるかな



玉すだれってどうなっているの

クリスマス会（病棟）

平成十八年十二月二十日（水）に各病棟がそれぞれに時間をずらしてクリスマス会を実施しました。今年度は、四つの病棟が揃ったクリスマス会では初めてとなりました。内容は各病棟とも工夫を凝らし、利用者様の劇、職員による演奏などそれぞれが熱演で大きな拍手と喝采を受けました。利用者様、ご家族の皆様、職員も笑顔に満ち、楽しい時間を共有することができました。



職員による寸劇



クリスマス会
出し物、次何ですか

クリスマス会（通所）

平成十八年十二月二十二日（金）に通所クリスマス会を開催しました。午前中は、サンタやトナカイの登場で、クリスマスの雰囲気を楽しみました。午後からはコンサートでオペラとピアノの演奏があり、利用者様ご家族の皆様もノリノリの一日でした。



クリスマスプレゼントは楽しみです。

成人式（通所）

平成十九年一月十九日（金）にお二人の成人式を行いました。はじめに、院長先生や療育部長からお祝いの言葉がありました。次にお二人の思い出がスクリーンに映し出された時は、様々な思い出が重なり皆様、目頭を熱くされました。その後、音楽ボランティアの方のピアノとフルートの演奏を楽しみました。

CTとは、X線を用いて得たデータをコンピュータで処理して、体の輪切りの写真を撮影する装置です。

従来のCTでは、X線管球と検出器が体の周りを一回転して一枚撮影するのに比べ、ヘリカルCTはX線を出しながら寝台も移動させて撮影を行います。(図1を参照) また、最近の装置は複数の検出器(二列から六十四列)を備わったものが出来たため、広い範囲を短時間で一度に検査ができるので、患者さんの負担も少なくて済みます。

(当院の検出器は十六列)

検査の方法として、従来のCTでは頭部などの動きの少ない臓器には良いX線像が得られますが、肺などの動きのある臓器に対しては呼吸や体動によるスレなどが生じます。

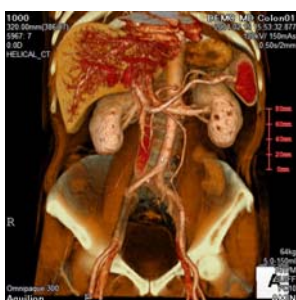
これに対して、ヘリカルCTは短時間でデータの収集を行うので、多少の呼吸によるブレや体動に対して強く、画像を再構築してあらゆる方向から見る事ができるメリットがあります。そのため当院では、通常頭部の撮影において高速で撮影する必要はないのですが、真上を向いたままの姿勢が困難な人が多いため有効に使用しています。

また、三次元画像の作成においては、通常のCTによる画像収集法では隣り合ったデータに連続性がなく、データを補えず凹凸が生じていたが、ヘリカルCTではデータ

を補うこと(データの補間)が出来るので連続的なデータとして得られ、それをもとに三次元画像の作成が可能となります。

Cutting edge

ヘリカルCTについて



3次元画像



当院のCT

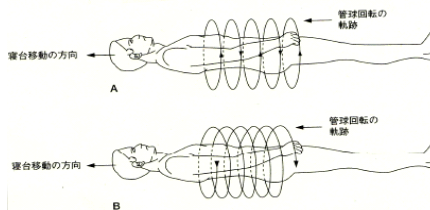


図1 (A) 通常のスキャン
(B) ヘリカルスキャン

編集後記

新しい年になり、わか草も第二号になりました。わが東部の「わか草」は皆さんに愛される広報誌を目指しています。この分野の新しいことが知りたいのでカテゴリーエッジに掲載してほしい。こんな企画はどうだろうか。私の部署でこんなことがあったのでぜひ寄稿したい。よい写真があるんだけど、などご意見・ご要望がありましたらぜひご連絡ください。では早く春が来ることを祈って今号のしめくりとしたいと思います。